



レンガ造りで歴史を感じさせるランベス宮殿

ランベス橋の上で

（ロンドン・ファンになる）



日本に住んでいると水の大切さを忘れてしまう。水道から出る水を安心して飲める国はそう多くはない。水は人間が生きていく上で不可欠のもの。メソポタミア、エジプト、インドス、黄河の古代四大文明は大河によって育まれた。そして近代まで、河は運搬・移動の手段として重要な役割を果たしてきた。

が、都市に人口が集中し、河は汚水や汚物を捨てる場となり、一時、悪臭が漂う汚いイメージがあった。しかし最近徐々に改善され、自然の安らぎを与えてくれる、本来の河

の姿になっているように思える。ロンドンの中心を流れるテムズ川もその代表の一つだろう。今回泊まったホテル「ノボテル・ウオーターール」はロンドン市内の南、テムズ川に架かる代表的な橋の一つ、ランベス橋の近くにあり、ランベス宮殿が目の前にある。

イギリス国教会の総本山と言われるカンタベリー大聖堂はロンドンの南、汽車で一時間半のところにある。最高位のカンタベリー大主教のロンドンでの住まいがランベス宮殿である。戴冠式などが行われるウエストミンスター寺院はここから歩いて十五分の対岸にある。

さて今回、娘と一緒に旅をして痛感したのは、今はインターネット社会だということである。飛行機をはじめホテル、劇場の入場券などすべてがインター

ネットによるものだ。出発前にロンドンに関する本が娘から送られてきたが、それもインターネットで注文したもの。私は辞書代わりにしか使っていないのでびっくりである。

ロンドンに着いたのは年末の二十九日（日曜）の朝。ホテルにチェックインしたのは昼前。気ままな旅なので午後の予定は特にない。と、娘はノートパソコンで何かを調べている。「お父さん、ウエストミンスター寺院の礼拝が午後三時からあるよ」と言う。インターネットでそんなことまですぐわかるのだ。散策気分と娘と二人で出掛ける。

ランベス橋の中央から下流域を眺めると、左側に世界遺産の国会議事堂やビッグ・ベンが、中央には二〇〇〇年のミレニアムを記念して建設された大観覧車のロンドン・アイ、絵葉書を見るようだ。

娘がデジカメを出して撮ろうとすると、通りかかった男性が「撮りましょう」と写してくれたのが右の写真だ。実は六日間のロンドン滞在中に同じように四回声を掛けられた。私はこの件だけで大のロンドン・ファンになった。



通行人から「撮りましょう」と声を掛けられた